



9月1日(金)
 介良民具館が
 オープン

介良地区に古くから伝わる民具約100点が展示されている介良民具館が介良小学校内へ移転し、リニューアルオープンしました。



9月18日(月・祝)
 アニマルランド
 ご長寿動物のお祝い

敬老の日に合わせ、チンパンジーのオスとしては現在国内最高齢60歳の「タロー」と、推定29歳以上のニッポンツキノワグマ「ワカ」の長寿を祝いました。



9月23日(土・祝)
 交通安全ひろば

中央公園で、パトカーや消防車などの乗車体験やステージイベントが行われ、子どもたちが楽しみながら交通安全について学びました。



9月10日(日)
 こうち介護カフェ
 in オートピア

介護に関わるさまざまな人が集まり、認知症の疑似体験やいきいき百歳体操の体験などを通して、楽しみながら介護を学びました。



9月23日(土・祝)
 土佐山
 彼岸花感謝祭

棚田と彼岸花の鮮やかな景色が広がる土佐山東川地区。赤と緑の見事なコントラストをカメラに収めようとする人の姿がたくさん見られました。



9月24日(日)
 高知市SDGsイベント
 in イオンモール高知

SDGs週間に合わせ、健康から地球環境まで幅広いテーマのイベントが開催されました。見て、触れて、体験できる展示は子どもたちに大人気でした。

撮りだち トピックス photo News

まちの出来事を写真でお届け

2023
 9.1
 [金]

9.30
 [土]

詳しくは
 Facebookで▶



くらしの中の
 SDGs

Vol.8

「本」の世界へ
 全ての人を

今月のテーマ

4 (ゴール4) 質の高い教育をみんなに

10 (ゴール10) 人や国の不平等をなくそう

「―私は紙の本を惜んでいた。目が見えること、本が持てること、ページをめくられること、読書姿勢が保てること、書店へ自由に買いに行けること、5つの健全性を満たすことを要求する読書文化のマチズモを憎んでいた―」。2023年上半期の芥川賞受賞作『ハンチバック』の一節です。作者の市川沙央さん自身も肢体不自由により読書が困難で、贈呈式後の記者会見では「一番訴えたいのは、『読書バリアフリー』が進んでいくこと」と言われていました。

「誰一人取り残さない」を理念とするSDGsの取り組みの推進にも大きく寄与するものです。2019年6月には読書バリアフリー法が公布・施行されました。誰もが読書を楽しめる社会の実現に向けて、何よりも多くの人が読書バリアフリーに関心を持つことが大切です。



▲見て聞いて楽しめるマルチメディアデザイン図書

【問い合わせ】声と活字の図書館
 ☎8223-9488

市役所の推しゴト!

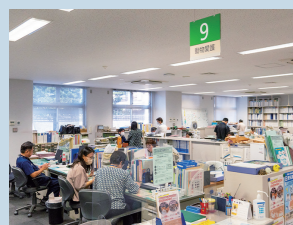
生活食品課 (動物愛護) 編

■食品衛生や生活環境衛生以外にも、こんな仕事をしている課です

動物愛護啓発

犬の登録

地域猫活動の支援



その他の業務内容は
 こちらから



▲生活食品課は総合あんしんセンターの1階です!

知っていますか? 犬や猫の飼い主のマナー!

犬や猫などの動物は、私たちの生活環境に密接に関わっています。動物との正しい付き合い方を啓発することも私たちの仕事です。

■動物も人も共生できる社会の実現のために犬や猫の正しい飼い方を広めるための情報発信やチラシの配布、講習会の開催などを行っています。ホームページでは、犬や猫についてのQ&Aや困り事への対応策なども掲載していますので、ぜひご覧ください。



犬猫のためのクラウドファンディングを11月30日(木)まで実施中!



【問い合わせ】生活食品課 ☎822-0588



市役所のお仕事を紹介します

生活食品課などの
 動物愛護?



こうちミュージアムネットワーク(リレーコラム)

歴史万華鏡

(132回)

間崎滄浪邸跡

北川村立中岡慎太郎館

学芸員 豊田 満広

高知あだご劇場(愛宕町一丁目)から東へ歩いて二つ目の交差点に、「間崎滄浪邸跡」の石碑がある。間崎滄浪(一八三四〜一八六三年)は土佐勤王党に四番目に加盟した学者である。間崎家は代々、幡多郡間崎村(現四万十市)の庄屋を務めていたが、滄浪の父房之助は高知城下に出て医業を開業した。

滄浪は幼少時から頭が良く、細川潤次郎・岩崎馬之助と並んで「三奇童」と呼ばれた。平尾道雄著「間崎滄浪」によると、三歳にして文字が読め、四歳にして孝経の文章を暗唱し、六歳にして四書五経(儒学で重要な経典とされた書物)を学び、七歳にして漢詩を作ることができたといわれる。滄浪は十七歳で江戸に游学し、二十歳の時、高知城北江ノ口村(現北本町一丁目)に塾を開いた。塾の建築は、嘉永六(一八五三)年七月二十日に地固めを終え、二十四日か二十五日には立柱式を行った。順調に進むと思われたが、落成が近づいた九月下旬に建築費が不足するという事態が発生した。九月二十七日付けで知人の野村竜助に送った手紙によると、不足額は二十五両。建築費が増額した理由は「一案外のことができたため」といわれる。



間崎滄浪邸跡の石碑